

とよた森林学校だより

楽しい森林学校ウォーキング

春なのに～、
どんぐりの話題は季節外れですが
昨年の活動を振り返ります！

第2回 ドングリを拾いながらウォーキング

2022年11月3日(木・祝)/六所山



▲童心にかえて、どんぐり拾い！

楽しい森林ウォーキングは3回シリーズで、第1回は10月10日寧比曽岳の予定でしたが、雨で不催行となりました。

第2回の六所山は、絶好の好天に恵まれ無事に催行できました。

2022年は11月7日が立冬。冬はすぐ近くまで来ていますが、スズカアザミ ツルリンドウ オトコエシ ノコンギク イナカギクなどが咲いていました。

センブリ キッコウハグマ アキチョウジは、100株ほど咲いていて、自然の花畑でした。

オオウラジロノキや、ミヤマガマズミ ミヤマシキミは、たくさん実をつけ、にぎやかな森でした。六所山は、自然が豊かで、植物も種類が多く、歩いていて飽きません。

テーマは、どんぐりですので、コナラ アカガシ シラカシ ウラジロガシ クリ ツブラジイ などのブナ科の葉やどんぐりを、じっくり見ながら歩きました。

最後に、中身が充実したツブラジイと、しいなのツブラジイを、手に持って比べてみました。ほんのわずかな重さの違いですが、感覚を研ぎ澄ませるとちゃんと分かりました。リスは、持ってすぐに分かるそうです。

秋晴れの空の下、笑い声の絶えない、楽しい一日でした。(永井)

第3回 シイの実を食べながらウォーキング

2022年11月23日(月・祝)/松平東照宮

第3回の松平東照宮は、雨でしたので、内容を少し変えて開催しました。

今回は、7種のどんぐりを拾うことがミッションでした。

アラカシ・シラカシ・アカガシ・ツクバネガシ・ツブラジイ・コナラ・アベマキです。

これにクリを加えて、松平東照宮には8種のブナ科樹木があります。

参加者は、講師からビニール袋をいくつかもらい、その中に教えてもらったどんぐりや殻斗や葉を入れていきます。ツブラジイの実は、あとで食べるので、できるだけたくさん拾いました。

どんぐり以外にも、いろいろありました。ここでは、ヤブコウジ(十両) カラタチバナ(百両) センリョウ マンリョウ がそろっていて、どれも実をつけていて見頃でした。

ツワブキ シナマンサク モチツツジ キッコウハグマ の花が咲いていて、じっくり観察しました。

雨でしたので、無料休憩所を使わせていただき、ツブラジイの実の炒ったものを試食。いつもながらの美味で、今年も食べられて幸せでした。

そのあと、今日見たどんぐりについて、北岡先生からミニレクチャーを授け、みなさん、真剣に聞いて、質問もたくさん出ました。

アベマキのクモ毛や、ヤブムラサキの星状毛も見ることができました。

雨でしたが、とても充実した観察会になったと思います。参加者の皆様、講師の皆様、有難うございました。(永井)



▲8種類のどんぐりのミニレクチャー
どんぐり博士になれたかな？

森林と災害 豪雨災害を忘れない



▲九州北部豪雨で川を覆い尽くす流木
2017年12月、あさひ森の健康診断報告会(蔵治先生の資料より)



▲2000年9月東海豪雨、堤防を越水して氾濫した矢作川左岸
豊田スタジアム付近 (国交省中部地方整備局提供)



▲講座内で森林での水の流量、蒸散量などの計測や解析の説明を受ける受講者のみなさん

第1回 11月 6日(日) 森林の持ついろいろな働きを知ろう!(東大演習林)

第2回 11月20日(日) 間伐すれば人工林はよみがえる(大洞市有林)

「すっかり忘れていた、東海豪雨の時のことを。」

2000年9月12日朝、豊田スタジアムの周りは「湖」と化した。

当時市長の鈴木公平氏は、堤防から手の届く増水した矢作川の氾濫の現場にいて「あのまま水位が上昇したら豊田市の中心街は水没する可能性がありました」と記している。

とよた森林学校講座「森林と災害」。

蔵治光一郎東大教授が講義と現場視察指導。

1回目が、猿投山の北側にある、東京大学演習林・生態水文学研究所赤津研究林。2回目が小原地区の大洞市有林。

受講した参加者の感想は率直かつ真剣だ。

「私は藤岡地区に住んでいます。交流館などでは47災害についての展示などを行っています。恐いなあ、いつかまたこんな災害がおこるのだろうなあと思っています。」

1972年7月の豪雨災害です。ちょうど50年前。線状降水帯による豪雨です。全国421人、現在の豊田市域で32人の死者・行方不明者を出しました。小原地区、藤岡地区の現況と災害時の航空写真との比較などで、リアルに災害と森林との関係を学んだ。7割が森林である豊田市住民にとっては他人事にははいけないと考えた。

「森林と災害。今私にとって一番気になる必要な講座でした。…間伐が必要なのかどうか(調べ・学び)、山と向き合っていけばよい。ひとつ目標ができました。(東大と豊田市が)ずーと、ずーと(森林を)観察してくれたことに感謝です。」

東京大学が豊田市より受託して、2015年から10年間、小原地区にある大洞市有林で、大規模で、地道な間伐の実証実験をしていた。その現場も案内してもらい、説明を受けた。

①間伐前 ②様々な間伐率の人工林 ③間伐しない人工林との比較実験だ。

蔵治先生のもと、東大の研究者職員、学生たちが手作りで装置をつくり設置している。

研究者職員が山に通い、気象装置はもちろん、森林での水の流量、蒸散量などを刻々データを取り計測し解析している。その規模と時間と緻密な作業は、研究に情熱をもっている専門家集団でしかできない。

「地道な研究、手作り計測器、仮設どおりにならない結果など大変なことをやっていることはわかった。」(参加者感想より)

大学の「基礎研究」の在り様に一同感動していた。

参加者からこのような「要望」も出された。

「これは絶対のお願い! 本当に、とっても勉強になりました。なかなか知る機会がなかったです。ぜひ子どもたち、学校の授業に、とりこんでください。子どもたちにおしえてあげてください。」(蔵治先生にぜひ生態水文学の入門書を執筆していただきたい。)(山本シ)



今も鮮明に覚えています!

矢作川リバーサイド、豊田スタジアム近くの我が家は2000年豪雨の時、「あわや床上か」というところまで浸水しました。

床上浸水を免れたのは、1988年の自宅新築の際に、祖父の「伊勢湾台風の浸水時まで家の土台を上げた方がいい」という助言でした。こうして軽量鉄骨造り、新築時の土台の高さは120cm!若い私たちは、余分に大きな

➤ 出費を背負いました。最小限の被害ですみました。

家の購入時など、古くから土着されている人に、過去の様子などを聞くことは、大切だと実感しました。

今も雨が降れば、矢作川の水位をチェックします。いざとなれば「とっとと逃げる!」、我が家の合言葉です。

あの豪雨から23年経ち、記憶も薄れたのが、当時の浸水地帯にも宅地が開発されています。ぜひ安全な所に居を構えて下さい。(謎のあはせんからの助言)

間伐・森の整備に関する講座

多様な間伐手法を学ぼう！

- 第1回 8月20日(土) 多様な間伐手法の紹介(御内市有林)
第2回 8月27日(土) 目標林型の考え方(大洞市有林)

とよた森林学校から多くの間伐ボランティアチームが生まれ、市内の様々な人工林で活躍しています。

人工林の間伐現場には、異なった地形や環境があり、それに応じての様々な間伐方法があります。

その現場や目的に合わせて、いろいろな森林を手入れしていくことは、多様でかつ豊かな森の実現が期待されます。

そこで既に間伐の経験のある方、これから間伐を行おうとする方々に、理論にもとづき自分の考え方で森づくりを楽しく行っていただきたいと思い、本講座を新設しました。今回の参加者は、14名でした。

●第1回では、間伐形態として、**列状間伐**など、目的に応じたさまざまな間伐形態を学びました。

またチェーンソーなしで行える**巻枯らし間伐**にもチャレンジ。皆さん、**皮剥ぎを子どものように専中**になって行っていたのが印象的でした。

●第2回では、岐阜県立森林アカデミーの大洞先生による、いろいろな人工林、天然林の紹介と、目的に合わせた森づくりを、興味深く学びました。

後半は現場で**林分調査**を行い、各自で森づくりを考えながらの**選木実習**。「どれを間伐すべきか」を発表したり、内容が大変有意義でした。

「今後の間伐活動に活かします。」との感想もありましたが、時間がタイトだったのは反省材料です。

来年度はさらにブラッシュアップした講座を目指します。

(あいてん・さんぞん 恵比根)

間伐ボランティア初級講座

本講座は2006年から「とよた森林学校」の1講座として昨年まで16回、その前は「とよたオイスカ森林塾」として5回、計21回の開催、卒業生約300名となります。

毎年参加者の多くが**間伐ボランティアチーム**を立上げ、現在、**15チームがチェーンソー片手に豊田市の森で間伐を行うなど「森の応援団」「とよたの森の強い味方」として活躍中**です。

豊かな森を目指すには孤軍奮闘でなく、仲間と一緒に。この講座ではそんな仲間づくりを目指しています。さて今年は何年か……。

今回の特徴は受講者が40、50歳代がメインで、60歳代がいないこと、かつ女性が6名とこれまでにない構成です。

いざ講座開催！ 開催日(9月17～19日)の目前に大型台風14号が接近。9月17日(土)の1日を行い、残り2日間は急遽10月15日(土)、16日(日)へ延期で、飛び石講座となりました。それでも受講者の皆さんは、その都度集合いただき、本当にお疲れさまでした。

チェーンソーの扱い方、伐倒の仕方、林分調査そして恒例の……。学習の日を重ねるにつれ連帯感も生まれ、最終日には盛り上がりも最高潮、和気あいあいの中で伐倒を行い、「これなら自分にもできるかな」との思いとともに講座を

終了しました。

「微…力ではありますが、ボランティア活動に参加したいと思います！」と宣言された方がいたのは感激です。

この学びの復習として「フォローアップ講座」を講座後に3回設けて行います。実習場所は足助城横の山林。「ブーン、ブンブッ！」とチェーンソーの音が聞えてきたら、実習やってるかも。そしてそこから新たな間伐チームが生まれたり、是非応援してやってください。

(あいてん・さんぞん 恵比根)

フォローアップ講座

- 第1回 11月13日(日) 第2回 12月11日(日)
第3回 1月15日(日)

本講座は年度初めの講座案内には出ていないものになります。なぜ？ それは講座案内に出ている「間伐ボランティア初級講座」の受講生に対し、チェーンソー実技の復習として設けられ、間伐ボランティア初級講座初日に受講者の皆さんに案内しているからです。(間ボラ講座は3日間だけでなく、さらに3日のおまけつき！)

この講座に、間ボラ講座で学んだ受講生の多くの方々が参加されました。

●第1回は、11月13日に開催されましたが、あいにくの天候。山に入って1時間もしないうちに雨が降り始め、早々に下山。屋内でお昼を食べながら、即興でロープワークの講習会を行いました。

この直後、にわかにチーム作りの話が受講生の皆さんから出てきました。本当に今年を受講生の皆さんは活気があるなと感心。

●第2回は、12月11日開催。午前に各種チェーンソーの説明と実技を行ったあと、チーム作りに向けての話し合いを設定。代表は安藤さん、チームの名前も即決定。**間伐ボランティア「山造豊志」**、カッコいい名前です。

●第3回は、年明けの1月15日(最終会)。受講生の皆さんの要望もあり、午前は**安全講習会**を開催。安全をしっかり頭に入れて。午後からは**山に入って実技**を行い、3日間の振り返りを行って解散終了。

受講生のあれをやりたい、これをやりたいを織込んだ、3日間のフォローアップ講座。受講生のモチベーションはすごい！

実技の時間がちょっと少なかったかもしれませんが、そこは今後の「山造豊志」の自主研修でカバーしましょう！ これを読まれた皆さんも、是非「山造豊志」を応援してください！

(あいてん・さんぞん 恵比根)



▲女性陣大活躍！ 趣味は間伐、特技はチェーンソー かっさばい！



▲スギ

読者の皆さんは、屋久杉とりわけ縄文杉を見に行ったことが、ありますか。

私は2006年8月24日に、縄文杉を見ました。残念ながら幹に近づけず、周囲も少し整備しすぎの状態でした。

4時間半かけて歩いただけの、巨木ではありませんが。

それより前日観察した宮之浦岳のヤクスギの老木の方が、ずっと素敵でした。

スギは、ほぼ日本固有種(中国南部に1変種あり)で、主に日本海側の多雪地に自生します。

木材として極めて有用で、建築材として古くより多用されてきた他、家具や酒樽として重要です。以前は、船材や電柱材としても多用されていました。

豊田市内には、現在は自生林はありませんが、古い地層から花粉が多数確認された事例はあるようです。

杉本町の(旭地区)の貞観杉は、市内随一の巨木で、この木のある神明社の創建が貞観時代(859~877年)と伝えられていることから、名付けられました。樹高は45m、幹周は12mあるようです。㊦

早春にみられるチョウ

早春、日当たりのいい、低地の落葉広葉樹の林下で、ひらひら飛ぶチョウを見かけます。これらのチョウは、成虫で越冬していたので、早くから活動することができます。地面でジーとしていたら、静かに観察しましょ！



◀テングチョウ

- 天狗のように顔の先が尖っている茶色っぽいチョウ。鼻のように見えるのは、パルピという部分。
- 幼虫の食草はエノキ



◀ヒオドシチョウ

- 鮮やかなオレンジ色に黒い紋があるタテハチョウの仲間
- 幼虫の食草はエノキ



◀ルリタテハ

- 紺色の地にルリ色のラインが特徴的なタテハチョウの仲間
- 幼虫の食草はサルトリイバラ



◀ムラサキシジミ

- 翅の表が青紫色に輝くシジミチョウの仲間
- 幼虫の食草はシイ・カシ類

森林学校講座の申込方法

1. 豊田市・森の総合サイトTomori にアクセス!

豊田市 トモリ

検索

2. アカウント登録 (初回のみ)

- 「楽しむ・学ぶ」ページ右上の 新規登録 をクリック
- 必要情報を入力し、利用規約に同意して登録 をクリック
- 届いたメールのURLをクリックし、サイトで本登録をして完了!

3. 講座の申し込み

- サイト上部の「楽しむ・学ぶ」をクリックし、
- をするをクリック
- 必要事項を入力し、 をクリックし完了!

※こちらからも講座の申し込みができます

お問い合わせ・申し込み

- おいでん・さんそん森林学校運営委員会
担当/山本 090-5453-6411(SMS可)
- 豊田市委務所 森林課 0565-62-0602

豊田市・森の総合サイトTomoriで
森林学校だよりのカラー版を見ることができます!

編集後記
suzuki.m

●森林学校だよりの12月号に入り切らなかつた講座内容の振り返りを、お届けします。いくつになっても学ぶことは楽しいね!

●2月の電気代高い! お正月休みもあり毎年高い請求金額の月ですが、「なんじゃこりゃー」、毎日の食料品もジワジワ高くなり「なんじゃこりゃー」。こんな時は、おにぎりを持って、森林学校に行きましょ! 頭は良くなるし、体力は維持できるし、衣装代もかからない、いいでしょ!